

# 株式会社 I X Z O Q

## 業務の自動化、IoTを準備検討 将来は海外展開も検討

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット



熱間鍛造金型用エジェクターピン

### 主な事業内容

熱間鍛造金型の製作、  
部品加工

### 主な取引先(納入先)

自動車部品メーカー

### 主な製品

熱間鍛造用金型、機械部品

### 業務内容 熱間鍛造金型・部品加工事業、 部品販売を柱に展開

同社は熱間鍛造金型の製造と部品加工を手がける。昭和60年に超硬合金素材の販売会社として前社長が創業。同63年には協力会社を活用した加工部品の販売も開始し、現在でも同社の営業力を生かした主力事業の柱となっている。もう一つの主力事業である鍛造金型製造および部品加工事業は、平成7年に東大阪市の工場を稼働させたことがきっかけとなった。同15年には現在の地に移転し工場を建設。内作加工能力の拡大のため工作機械も導入し、金型加工技術者の育成にも着手した。同26年に現在の今堀育樹社長が就任すると、部品加工は幅広い業界との取引に発展するまでに成長を遂げた。

### 強み 充実した営業部員と 200社超のネットワーク

同社のもともとの成り立ちが販売会社であったことから、営業部員約10名が熱間鍛造金型の製造ノウハウを熟知しており、顧客との緊密な関係を築いている。マシニングセンター(MC)を始めとする工作機械を保有し、さまざまな加工に対応できるのはもちろん、

### コスト ダウン 金型寿命を 1.5〜2倍に

200社以上におよぶ協力会社と緊密なネットワークを構築しており、切削加工のほか熱処理加工、表面処理、特殊合金の溶接など、さまざまな要求に対応できる。この協力会社の技術レベルや繁忙状況を把握することで、品質や納期を管理するのも営業部員の大切な仕事となっている。仕上がった製品は社内での検査部門で最終検査を行う徹底ぶりだ。

鍛造金型には何百トンもの力で鉄の塊を押しつけ変形させるため、非常に大きな力が作用する。特に金型の角部には剪断力が強く加わることで金型が摩耗する原因となっている。同社の金型では、摩耗しやすい部分にコバルトを主体としてクロム、タンゲステンなどを添加した非常に硬い特殊合金を加工することで、金型寿命を1.5倍から2倍に伸ばした。これにより鍛造品メーカーの大きな負担となっている金型交換の回数軽減に貢献している。一般的にはこのような超硬部品は高い精度で加工することが難しいとされるが、同社では特殊加工機などを活用し、マイクロメートル単位の加工を実現している。

### 社長あいさつ



代表取締役  
今堀 育樹さん

事業の拡大に伴い、互いの連携を再度強化すべく社是を見直しました。現在、5年後を目的にRPA(ロボットによる業務自動化)やIoT(モノのインターネット)の導入も進めています。これが実現できれば大幅な生産性向上につながり、将来の海外への事業展開も視野に入ります。

### 主な保有設備

- 複合加工機  
ヤマザキマザック製 1台
- マシニングセンター  
ブラザー工業製 他 2台
- 放電加工機  
三菱電機製 他 3台
- 研削盤  
岡本工作機械製作所製 他 12台
- 3次元測定機  
ミットヨ製 他 2台

大阪01 ISO 9001

住所 / 〒574-0064  
大東市  
御領4-3-2  
TEL / 072-874-2438  
FAX / 072-874-2421  
創業 / 昭和60年9月  
設立 / 昭和60年9月  
資本金 / 1,200万円  
従業員 / 48名



特殊合金を盛り付けた金型ピン



納品前の全数検査



<http://www.ixzoq.com>

※同社は令和2年2月に株式会社IXZOQに社名を変更いたしました。